

ま え が き

動物薬事行政や動物用医薬品の製造販売に携わる皆様には、日頃より動物用医薬品等の安定供給と動物衛生の向上にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

令和7年4月から10月までの半年間、大阪・関西万博（Expo2025）が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催されました。世界150以上の国と地域、国際機関が参加し、大阪の夢洲には、最先端の科学技術、環境・エネルギー、医療や食など未来の社会を体感できるパビリオンが集結しました。特に、人類の未来に貢献する実験場として、カーボンニュートラルやデジタル社会の実現に向けた取り組みが紹介されたほか、伝統文化や食文化の魅力を体感できる企画が展開されるなど、未来への希望と共創を象徴するイベントとして、多くの来場者を魅了しました。

農林水産分野では、令和6年に25年ぶりに改正された農業政策の憲法ともいえる食料・農業・農村基本法に基づき、令和7年4月に新たな「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。この計画は、食料安全保障の確立、農業の持続的発展、農村の活性化を柱に、日本の食と農の未来を支えるものです。とりわけ家畜衛生の分野では、アフリカ豚熱、口蹄疫等の越境性疾病や、高病原性鳥インフルエンザなど重大な家畜伝染病について、日常的な飼養衛生管理の点検・改善を徹底するとともに、万が一の発生時には早期通報や迅速な摘発、まん延防止措置の実施体制を強化することが盛り込まれています。さらに、薬剤耐性（AMR）対策では、動物用抗菌薬の適正使用・慎重使用に加え、現場ニーズに即したワクチンや代替薬へのアクセス向上の推進、乳房炎や肺炎など慢性疾病も対象として産学官が連携したワクチン開発・安定供給の促進、飼養衛生管理の指導強化を進めることとされています。

また、令和6年11月に策定された「動物用ワクチン戦略中間取りまとめ」を踏まえ、令和7年3月には、産学官連携の場としてVMC（Veterinary Medicine Industry-Academia-Government Collaboration）プラットフォームが立ち上げられました。プラットフォームでは、動物用ワクチン戦略の目標達成に向けて、産業動物用ワクチンの安定的な確保・供給、現場のニーズに即した新たなワクチンの開発支援、承認審査の最適化などをテーマとするワーキンググループが設置され、議論が開始されています。さらに、令和7年6月に公表された「豚熱清浄化ロードマップ」を踏まえ、豚熱マーカーワクチンの早期実用化に向けて、製造、供給に関する課題等についてワクチンメーカーとの検討も進められています。

当検査所は、昭和31年6月に農林省の独立官署として誕生し、昭和34年4月に東京都北多摩郡国分寺町戸倉新田（現・国分寺市戸倉）に庁舎が完成し、67年間にわたり国分寺市で歴史を積み重ねてきました。このような中、昭和40年に決定された東京都都市計画道路の計画変更（道路幅拡幅）を受け、平成31年4月から、茨城県つくば市への全面移転計画に着手し、令和5年度からつくば新庁舎の建設が開始され、令和7年3月に竣工しました。5月から順次引越作業を進め、6月からは一部の業務がつくば庁舎で開始し、9月にはすべての業務の移転が完了しました。職員一同、気持ちも新たに、動物薬事行政及び家畜衛生行政の更なる発展に貢献してまいります。

令和6年度の年報をご高覧いただき、皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。当検査所の使命は「動物の命と食の安全を守る」ことにあります。この使命を胸に、職員一同一層の努力を重ね、次号の年報においてより多くの成果をご報告できるよう努めてまいります。

令和8年3月
動物医薬品検査所長

荻窪 恭明